

第二期計画における「区域の設定」について（案）

1 国の基本指針における考え方

- 子ども・子育て支援事業計画における区域は、就学前の教育・保育及び地域子ども子育て支援事業の量の見込みと、それに対する確保策等を定めるに当たっての地理的な単位として設定するものとしている。
- この区域の設定は、就学前の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業における共通の区域とすることが基本。ただし、区市町村の実態等に応じて就学前の教育・保育又は事業毎に設定することも可能とされている。

2 第一期計画における区域設定

- 第一期計画では、主に以下の理由から、就学前の教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業における共通の区域として「全区による1区域」とした。

【理由】

- ① 仮に、区の施設配置基準である7地域で区域を設定した場合、例えば、各地域における認可保育所入所申込者数の対前年度比伸び率は相当の増減（最大で±40ポイント）がある。
- ② 同じく7地域で見た場合、各地域における幼稚園・保育施設別の利用実態は居住地域以外の施設を利用するケースも多い。（幼稚園で居住地域内の施設利用は最低が44%、最高が85%。保育園では同じく最低が57%、最高が76%）
- ③ 上記①・②による7地域の場合の考察を踏まえると、例えば、より小さな区域（小学校区や中学校区等）に設定した場合、更にアンバランスが大きくなることが想定される。



このため、「全区による1区域」とし、区が施設・事業の整備に当たり地域バランスを考慮しつつ必要な調整を図ることが適当であるとした。

3 平成30年度における幼稚園・保育施設等の地域内利用率※

※地域内利用率：居住している地域内の教育・保育施設を利用している児童の割合

- 保育施設では、7地域を区域とすることに一定の妥当性が見られるものの、幼稚園は依然として相当のアンバランスとなっている。

【幼稚園】		【保育園】	
地域	地域内利用率	地域	地域内利用率
井草	54%	井草	81%
西荻	52%	西荻	74%
荻窪	27%	荻窪	73%
阿佐谷	67%	阿佐谷	76%
高円寺	49%	高円寺	82%
高井戸	68%	高井戸	74%
方南・和泉	44%	方南・和泉	75%
平均	52%	平均	76%

幼稚園と保育園の地域内利用率の差は、井草地域で27ポイント、荻窪地域で46ポイント、阿佐谷地域で9ポイント、高円寺地域で33ポイント、高井戸地域で6ポイント、方南・和泉地域で31ポイントの差がある。平均差は41ポイント（幼稚園）と9ポイント（保育園）である。



- 第二期計画における「区域の設定」については、第一期計画と同様に、「全区による1区域」とし、引き続き、区が施設・事業の整備に当たり、地域バランスを考慮して必要な調整を図ることとする。
- なお、第二期計画期間内における各年度の点検・評価に際し、各施設・事業における、より適切な区域設定のあり方の検討に資する利用実態の分析等を行っていくものとする。

— 参考：7地域の区域図 —

